

2016年スウェーデン・マルメ研修に参加して

マリモ歯科・矯正 稲川 智恵美

今回マルメ大学研修に参加させていただき現地の診療室や大学内の見学や、ダン・エリクソン先生をはじめ色々な先生の講義を直接聞いたことを自分自身の歯科衛生士としてや人生の中でとても貴重な経験になりました。

歯科医療の本質とはなにか、今回のキーワードの一つであるリスクアセスメントと健康増進に関して、リスクに基づくキャビテーションシステムを学ぶ事ができました。講義の中で1970年代スウェーデンは日本よりも虫歯が多かったが、医療制度の改革ののちに変化していったと過程がありました。

キャビテーションシステムはリスクが高い人は医療費は高くなりリスクが低い人は医療費が安くなるシステムはとても素晴らしいものだと思います。日本ではタバコを吸う人も、吸わない人でも医療費は一緒ですし、きちんとホームケアができていて、フッ素も使っている人とホームケアができない人でも医療費が一緒です。日本もキャビテーションシステムがあるべきだと思いますし、日本の現実を考え悲しくも思いました。

国全体は難しくてもメンテナンス自費化にしていかに健康観を伝えることで少しでも口腔健康増進に繋がり行政を変える一歩になることが今の自分にできることの一つだとかんじました。

歯科教育における問題解決型学習方法(PBL)に関しては納得、共感の要素がたくさんあり、今後医療教育全体が講義が多い授業だけではなく、自分の今持っている知識を活かしつつ実技をもって体感し問題解決に取り組む事が大切だと思います。新人教育に対しても参考にし、新人がより意欲を持ち学べる環境を作るのが新人を受け入れる立場として必要だと感じました。

だ液検査の実習では今までも自分の検査をしてきましたが、今行っているやり方とほんの少し違いがあり新たな発見がありました。又、SM菌の判断がいままで医院では少し厳しくつけていたように感じました。外に出て体験することにより自己流にならず修正することができました。この知識を自分の中でとどめることなく医院に反映していきたいと思います。

この研修に参加するまでは、一生に一回はスウェーデンに行って本場の歯科医療にふれてみたいという憧れでした。この研修に参加して最新の歯科医療をもっと体感し視野を広げたいと思いました。熊谷先生のおっしゃるように定期的に海外における最新の歯科医療の現場を視察し、グローバルスタンダードの感性を持ち日々の診療にフィードバックさせていきたいと思います。今回このような学べる機会を頂きありがとうございました。